

第2回カリマネ研修『生徒の社会性向上を目指して』に関する教員の意見

継続すること Keep	改善すること Problem
<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い注意 ・対話をして納得させる ・年度初めに徹底する ・授業開始前の声掛け(プラス要素を含めて) ・教員も時間を守る ・見通しを立てる ・とことん声掛け ・「社会に出てそれでいいのか？」を考えさせる ・具体的な指示(〇〇前には△△します) ・特定の生徒の場合は、家庭と連携(TEL等) ・携帯電話を使用、私語をしている生徒への注意・指導 ・完全下校時刻を守らせる ・集会等に携帯電話を持ち込ませないための注意 ・関係性を築いておくことで、注意を聞き入れやすいようにしておく。 ・(罰ではなく、促すように)声を掛ける。 ・スマホは授業中も行事の時も使用しないよう注意する。 ・時間を守らせる。 ・毎回注意をする。なぜダメなのか理由を伝える。 ・机間を通して喋っている対象者に直接注意する。 ・集会の時に全体へ注意する。 ・感情的に注意しない。 ・具体的に丁寧に指示する。 ・繰り返し注意する(根負けしない)。 ・きつく(強く)注意しない。 ・発問の準備、ほめる。 ・プラスメッセージを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導のラインをぶらさない ・指導の理由(なぜだめか)を明確にする ・積極的な声掛け(対話の機会を増やす) ・教職員全員で統一した指導 ・卒業に関わらない等、最低限のことしかしない意識の改善 ・周りから見られているという自覚を持たせる ・年次で統一させるべき(明確にする) ・スマホは毎日、ロッカーにしまう。 ・言葉の注意だけでなく、図などを使って視覚的な周囲を促す。 ・完全下校時刻を守らせるために、放送だけでなく声掛けを多くする。 ・放送の時刻を早くする。 ・講演会などの全体集会は、年次に関わらず、多くの教員で対応する。 ・欠席の多い生徒の授業理解を教員側があきらめてしまう。 ・生徒指導に関する「あきらめようとする気持ち」に負けない。
新たに挑戦すること Try	全教員で共通して取り組むべきこと
<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強い声掛けを全員でする ・ルールの明示(例:SHR開始時に扉を閉めて、出欠の明確化を図る) ・授業で最初に「本日のめあて」「取り組む内容」を黒板に書き、内容の視覚化をする ・集会等で、教員が生徒の視界に入るところに立つ ・集会等で体育館へ行く際、スマホを下駄箱に置かせる。守っていない生徒には再度、ルールを確認させる。 ・将来の夢を家族と共に考えてくるプリントを配布する。 ・生徒のちょっとした行動を大げさに誉める。 ・スケジュール管理のためのメモを持たせる。 ・信頼関係を築いている先生とそうでない先生とでルールを守れるかどうか変わるのとは問題なので、何とかしたいが、具体的な方法は… ・映像で見せる→視覚的・客観的に。 ・TPOに応じた行動を促す(例:テーブルマナー体験をさせる)。 ・検定取得にとらわれない授業(商業)。 ・球技大会の成功を例にし、「携帯を使わせない・ヒマにさせない工夫」を実行する。 ・教員自身が「教え方・生徒の接し方」等を学ぶべき。 ・公開授業が形骸化しているため、学ぶ機会をもっと増やすべき。 ・生徒同士が話し合える場面作り。 ・学校設定科目で「SHRを含む『朝学習15分×5』」の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会等で、教員が生徒の視界に入るところに立つ ・将来の夢を家族と共に考えてくるプリントを配布する。 ・妥協しない指導 ・月ごとに目標を決めて、守らせる。(強化月間) ・生徒の些細な行動を見逃さず、すべての教員で関わる(集会の時など)←あきらめようとする気持ちに負けない。 ・教員が持っているノウハウを交換する場を設ける(公開授業など)。 <p>【問題点】の解消以外に期待できる生徒の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に対する自覚が芽生える ・粘り強い声掛けで、関係性が築ける→自発的な挨拶へと発展 ・ルールを守ること、相手を嫌な気持ちにさせず、社会の中でうまく生きていけることにつながる。